



ABEL
PRISEN

ノルウェー科学文学審議会は2003年度のアーベル賞の受賞者を発表した。

ジャン ピエール セール コレージュ・ド・フランス、パリ、フランス

”代数トポロジー、代数幾何学及び整数論を含む多岐にわたる数学の現代フォームの推進において中心的な役割をはたしたことによる。”

第一回アーベル賞は、現代の最も優れた数学家のひとりである、パリのコレージュ・ド・フランスの名誉教授、ジャン ピエール セールに送られることになった。彼の過去半世紀におよぶ数学の発展への貢献は偉大であり、その働きは現在も続けられている。

セール氏の働きは広範囲にわたり、深い意味を持ち、その影響力も大きい。又、氏は数学の現代フォームの推進において中心的な役割を果たした。それは以下の分野を含む。

- ・代数トポロジー、長さの概念が変化しても変わらない代数幾何学的性質の問題について。
- ・代数幾何学、多項式の幾何学的解法について。
- ・整数論、数に関する基礎的な属性について。例えば、フェルマの最終定理における素数と多項式の解。

セール氏は、代数法を革命的に発展させ、特に高次元の球体の交換についての研究に力をいれた。幾何学的構造が適用できる条件を決定するため、適切な代数的な仕組みを導入しかつ開発することによって、イタリア式代数幾何学は解明され、セール氏はその中心的な立場で貢献した。このセール氏のカブよいテクニックはその新しい手法と観点とともに代数幾何学の黄金時代を確かなものにした。

過去40年間においてセール氏が残した整数論に関する特筆すべき功績と観点は現代のその分野における成功の基となった。この功績には、アーベルによって紹介された数学的概念が多くの意味において発展した形

で存在している。特に、彼の五次式の解の公式が根号によって存在しないという証明と、2つの変数による多項式のための分解法は特筆すべきである。セール氏の研究は、近年における多くの突破に貢献した。その中には、ワイルズのフェルマの最終定理の証明も含まれる。

セール氏の業績は、概念数学をより指し示すものであったが、重要な適用にも貢献している。有効的な誤謬訂正のコードの発明と暗号使用法の一般的な鍵は実際の業績で、両者とも多項式の解法（特に有限解において）を利用することによって生まれた。セール氏の働きは、我々がこのテーマを理解するためには不可欠なものとなった。

ジャン ペール セール氏は1926年 フランスのバジュ生まれ。エコール・ノルマル・シュベリオールで学び、博士号はパリ、ソルボンヌ大学で1951年に修得。CNRS（フランス国立研究所）に勤務した後、ナンシー大学の助教授となり、1956年にはコレージュ・ド・フランスの教授に就いた。

1974年にはロイヤルソサエティのフェローに選ばれ、レジオンドヌール勲章を授けられた。

ロイヤルソサエティの他に、フランス、スエーデン、アメリカ、オランダ他、各国の学術審議会員にも選ばれている。1954年にはフィールズ賞（受賞者の中では最年少）、1970年にはブリクッス・ガストン・ジュリア賞、1985年にはバルザン賞、1995年にはスティール賞、2000年にはウォルフ賞を受けている。名誉学位を多くの大学から受けており、最も新しいものとして、アーベル生誕200年記念祭にはオスロ大学から寄与されている。